

⑫ 公開特許公報 (A)

平3-63206

⑬ Int. Cl. *

A 61 K 7/00

識別記号

府内整理番号

⑭ 公開 平成3年(1991)3月19日

C 9051-4C

L 9051-4C

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全6頁)

⑮ 発明の名称 油性固化形化粧料

⑯ 特願 平1-200708

⑯ 出願 平1(1989)8月2日

⑰ 発明者 百瀬 重穂 東京都北区栄町48番18号 株式会社小林コーポレーション研究所内

⑰ 発明者 杉本 淳樹 東京都北区栄町48番18号 株式会社小林コーポレーション研究所内

⑰ 出願人 株式会社小林コーポレーション 東京都中央区日本橋3-6-2

⑰ 代理人 弁理士 有賀 三幸 外2名

明細書

料に関する。

〔従来の技術〕

従来、油性固化形化粧料の形状を保持するための固化剤としては、ミクロウ等の動物性ワックス；カルナウバワックス、キャンデリラワックス等の植物性ワックス；セレシン、バラフィンワックス、マイクロクリスチルワックス等の鉱物性ワックスが使用されている。

〔発明が解決しようとする課題〕

しかしながら、従来用いられている動物性ワックス、鉱物性ワックスは固化力が劣るため、形状保持性を得るには充分満足できるものではなかった。また、これらを多量に使用すると、塗布時ののびやなめらかさなどの使用感が損われてしまうという問題もあった。

このため、優れた形状保持性と使用感を併せもつ油性固化形化粧料の開発が望まれていた。

〔課題を解決するための手段〕

所かる実情において、本発明者らは継続研究を行なった結果、固化剤として融点が特定範囲内に

1. 発明の名称

油性固化形化粧料

2. 特許請求の範囲

1. (a) 及び (b)

(a) 融点が85～105℃の倒錠を有する飽和炭化水素

及びジソステアリン酸ジグリセリル及び／又はトリイソステアリン酸ジグリセリル

を含有することを特徴とする油性固化形化粧料。

2. (a) 成分を3～30重量%、(b) 成分を10～90重量%含有することを特徴とする請求項1記載の油性固化形化粧料。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は油性固化形化粧料に関し、更に詳しくは、融点が特定範囲内にある倒錠を有する飽和炭化水素と、ジソステアリン酸ジグリセリル及び／又はトリイソステアリン酸ジグリセリルとを含有し、形状保持性に優れ、使用感が良好な油性固化形化粧

ある形態を有する飽和炭化水素を用い、これに液状油剤としてジイソステアリン酸ジグリセリル及び／又はトリイソステアリン酸ジグリセリルを組み合わせて用いれば、形狀保持性と使用感に優れた油状固化剤が得られることを見出し、本発明を完成した。

すなわち、本発明は、(同及び同)

(同)融点が85～105℃の形態を有する飽和炭化水素

とジイソステアリン酸ジグリセリル及び／又はトリイソステアリン酸ジグリセリルを含有することを特徴とする油状固化剤を提供するものである。

本発明で用いられる(同)の飽和炭化水素は、融点が85～105℃で、形態を有するものである。融点が85℃未満のものは固化力が劣るため充分な形狀保持性が得られず、また105℃を越えると、使用感が悪く、製造時に高温にならなければならぬため使用し難いので好ましくない。前記範囲内に含まれる飽和炭化水素は、天然又は合成

30重量%を越えると固さが著しく増して使用感が悪くなるので好ましくない。

また、本発明で用いられる(同)のジイソステアリン酸ジグリセリル及びトリイソステアリン酸ジグリセリルは、ジグリセリンに2個又は3個のイソステアリン酸を結合させたエスチル化合物であり、液状油剤として使用されるものである。これらの市販品としては、コスモール42、48(共に日清製油社製)等が挙げられる。

これらジイソステアリン酸ジグリセリル及び／又はトリイソステアリン酸ジグリセリルは、全組成中に10～90重量%、特に30～50重量%配合するのが好ましい。10重量%未満では本発明の効果が得られず、90重量%を越えると前記飽和炭化水素等の他の成分の配合量が少くなり、形狀保持性が損われるので好ましくない。

さらに、本発明の油状固化剤には、前記必須成分の他、化粧目的等に応じ、通常の化粧料に用いられる成分、例えば前記以外の油剤、粉体、着色剤、香料、保湿剤、防腐剤、美容成分、液化

のものであり、具体的には融点が85～105℃のマイクロクリスチルワックスやポリエチレンワックス、フィッシャートロブショウワックスが挙げられる。具体的には、融点が85～105℃のマイクロクリスチルワックス、ポリエチレンワックス等が挙げられる。これらの市販品としては、マイクロワックス190Y(モービル社製)、ハイミック1080/2095(日本製蠟社製)、サンワックスE-2000/E-300(三洋化成工業社製)、モービル180(モービル社製)、スター ワックス100(パリコ社製)、日石マイクロワックス180(日本石油社製)、フィッシャートロブショウワックスPT-95/PT-100H/PT-150/PT-200(ザギール公社製)、ビースクエア180/185/190/195(パリコ社製)、ポリワックス500/655(パリコ社製)等が挙げられ、適所に使用し得る。これら飽和炭化水素は、全組成中に3～30重量%、特に3～20重量%配合するのが好ましい。8重量%未満では、充分な形狀保持性が得られず、

防止剤、紫外線吸収剤、樹脂、高分子、界面活性剤、防腐剤、アルコール等を適宜選択して配合することができる。

本発明の油状固化剤は、通常の方法に従って製造することができ、口紅、リップクリーム、ファンデーション、頬紅、アイシャドウ、アイライナー、アイブロウなどとして通用することができる。

【実施例】

次に、実施例を挙げて本発明を更に説明するが、本発明はこれら実施例に限定されるものではない。実施例1

第1表に示す組成のスティック状口紅を調製し、折れ強度及び使用感について評価した。結果を第1表に示す。

【製法】

A. (1)～(6)を120～130℃にて加熱溶解する。

B. AにBを加えて均一に混合する。

C. Bを脱泡後(2)、Dを加えて均一に混合する。

D, Cを型に液し込み充填法、冷却して成型する。

(評価方法)

折れ強度・・・レオメーターHRM-2002J(不動工業製)により測定し、充分な形状保持性を有するものから成形困難なものまでを◎～×の4段階で評価した。

使用感・・・20名からなる女子パネルを対象とした使用テストにより、進布時ののび、なめらかさについて評価した。評価は、のびが良く、なめらかに進布できると判定した人数で行い、次の通り表わした。

15人以上の場合:◎

10～14人の場合:○

5～9人の場合:△

0～4人の場合:×

尚「-」は折れ強度が低いため、

特開平3-63206 (3)
使用感を評価することが困難であった。

以下余白

第1表

成 分(重量%)	本商品		比 較 品						
	(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
(1)マイクロクリスチルンワックス(融点95℃)	12	12	-	-	-	12	12	12	12
(2) " (融点75℃)	-	-	12	-	-	-	-	-	-
(3)レバフリンワックス (融点85℃)	-	-	-	12	20	-	-	-	-
(4)ジイソステアリン酸ジグリセリル	52	20	52	52	44	-	-	-	-
(5)トリイソステアリン酸ジグリセリル	-	32	-	-	-	-	-	-	-
(6)モノイソステアリン酸ジグリセリル	-	-	-	-	-	32	-	-	-
(7)チトライソステアリン酸ジグリセリル	-	-	-	-	-	-	52	-	-
(8)2-エチルヘキサン酸セチル	-	-	-	-	-	-	-	52	-
(9)トリオクタン酸グリセリル	-	-	-	-	-	-	-	-	52
(10)ポリブテン	10	10	10	10	10	10	10	10	10
(11)ミリスチン酸オクチルドデシル	20	20	20	20	20	20	20	20	20
(12)着色剤	5	5	5	5	5	5	5	5	5
(13)香料	1	1	1	1	1	1	1	1	1
折れ強度	◎	◎	△	×	○	○	△	△	△
使用感	○	○	○	-	×	×	-	-	-

特開平3-63206 (4)

第1表から明らかな如く、本発明のスティック状口紅は、折れ強度が高く、形状保持性に優れ、しかも塗布時の及び、なめらかさ等の使用感が良好であり、また色むらや飛げ等もなく、成型状態も良好であった。

これに対し、固化剤として融点の低いマイクロクリスチリンワックスやパラフィンワックスを用いた場合(比較品[1]、[2])、使用感は良好なもの、固化力が弱いため折れやすく、配合量を多くして折れ強度を上げると(比較品[3])、のびやなめらかさが悪くなり、使用感が低下してしまった。また、形状油剤としてジイソステアリン酸ジグリセリル及びトリイソステアリン酸ジグリセリル以外のものを用いた場合(比較品[4]～[7])、いずれも折れ強度が充分でなかったり、使用感は満足できるものではなかった。

実施例2 スティック状アイシャドウ

(組方)	(重量 %)
(1)マイクロクリスチリンワックス	10.0
(融点 95℃)	

(3)パルミチン酸イソプロピル	5.0
(4)ラノリンアルコール	2.0
(5)ラノリン	3.0
同マイクロクリスチリンワックス	7.0
(融点 95℃)	
(7)オゾケライド	8.0
同キャンドリラワックス	0.5
(9)酸化チタン	10.0
同カオリン	14.8
同タルク	10.0
同着色顔料	5.0
同香料	0.2

(製法)

- (1)～(4)を加熱溶解する。
- (5)～(8)を混合攪拌する。
- (A)～(B)を加え、ロールミルにて混合攪拌する。
- (C)～(D)を再溶解後、攪拌を抜けながら冷却し、(E)を加えて容器に挿し込み成型する。

上記の如くして得られた油性ファンデーション

(1)被動パラフィン	10.0
(2)トリイソステアリン酸ジグリセリル	28.8
(4)ワセリン	5.0
(5)ソルビタンセスキオレート	1.0
(6)マイカ	10.0
(7)微細チタン	20.0
(8)着色顔料	15.0
(9)香料	0.2

(製法)

- (1)～(4)を加熱溶解する。
- (5)～(8)を加えて混合攪拌する。
- (9)を加熱後(1)～(8)を加えて、絞り出し容器に直挿し込み、冷却して成型する。

上記の如くして得られたスティック状アイシャドウは、形状保持性に優れ、しかも使用感も良好なものであった。

実施例3 油性ファンデーション

(組方)	(重量 %)
(1)被動パラフィン	24.5
(2)トリイソステアリン酸ジグリセリル	10.0

は、形状保持性に優れ、しかも使用感も良好なものであった。

〔発明の効果〕

以上詳述した如く、本発明の油性固形化粧料は、形状保持性に優れ、しかも塗布時の及びなめらかさが良好で優れた使用感をも併せもつ、極めて有用なものである。

以上

出願人 株式会社 小林コーセー

代理人 弁理士 有賀 三幸

弁理士 高野 釜志雄

弁理士 中嶋 俊夫

手 続 極 正 書 (自発)

平成 元年 8月30日

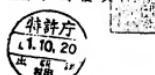
特許庁長官 吉田文毅

1. 事件の表示
平成元年特許願第200706号2. 発明の名称
熱性樹脂化剤料3. 極正をする者
事件との関係 出願人
名 称 株式会社 小林コーポー4. 代 理 人
住 所 東京都中央区日本橋人形町1丁目3番6号(〒103)
共同ビル 電話(669)0904
氏 名 (6870) 井理士 有賀三
住 所 同 上
氏 名 (7756) 井理士 高野 登志雄
住 所 同 上
氏 名 (9673) 井理士 中崎 俊夫5. 極正命令の日付
日 月

手 続 極 正 書 (自発)

平成元年10月15日

特許庁長官 吉田文毅

1. 事件の表示
平成元年特許願第200706号2. 発 明 の 名 称
熱性樹脂化剤料3. 極正をする者
事件との関係 出願人
名 称 株式会社 小林コーポー4. 代 理 人
住 所 東京都中央区日本橋人形町1丁目3番6号(〒103)
共同ビル 電話(669)0904
氏 名 (6870) 井理士 有賀三
住 所 同 上
氏 名 (7756) 井理士 高野 登志雄
住 所 同 上
氏 名 (9673) 井理士 中崎 俊夫5. 極正命令の日付
日 月

6. 極正の対象

明細書の「発明の詳細な説明」の欄

7. 極正の内容

- (1) 明細書中、第2頁第12～13行
「できるものではなかった。」とあるを
「できるものではなかった。」と訂正する。
- (2) 同第4頁第4～6行
「具体的には、…………が挙げられる。」
とあるを削除する。

6. 極正の対象

明細書の「特許請求の範囲」及び「発明の詳細な説明」の欄

7. 極正の内容

- (1) 明細書中、特許請求の範囲を別紙のごとく訂正する。
- (2) 明細書中、第3ページ、第8行、
「融点が85～105℃」とあるを、
「融点が85℃を超える105℃以下である」と訂正する。
- (3) 明細書中、第3ページ、下から第7～8行、
「融点が85～105℃で、側面を有するものである。」とある
を、
「融点が85℃を超える105℃以下で、側面を有するものである
が、特に融点が87～95℃であるものが好ましい。」と訂正す
る。
- (4) 明細書中、第3ページ、下から第5行、
「85℃未満」とあるを、
「85℃以下」と訂正する。
- (5) 明細書中、第4ページ、第1～2行、
「融点が85～105℃の」とあるを、
「融点が85℃を超える105℃以下である」と訂正する。
- (6) 明細書中、第4ページ、第7行～下から第4行、
「マイクロワックス190Y (モービル社製)、…………
……ポリワックス500/655 (パリコ社製) 等」とあるを、

「モービル190Y（モービル社製）、ハイミック2055（日本製紙社製）、サンワックスE-200、サンワックスE-300（以上、三洋化成工業社製）、フィッシャートロブッシュワックスFT-95、フィッシャートロブッシュワックスFT-100B、フィッシャートロブッシュワックスFT-150、フィッシャートロブッシュワックスFT-100（以上、サゾール公社製）、ビースクエア185、ビースクエア190、ビースクエア195、ポリワックス500、ポリワックス655（以上、バリコ社製）等」と訂正する。

特許請求の範囲

1. (a)及び(b)

(a)融点が85℃を越え105℃以下である側鎖を有する飽和炭化水素

(b)ジイソステアリン酸ジグリセリル及び/又はトリイソステアリン酸ジグリセリル

を含有することを特徴とする油性固体化粧料。

2. (a)成分を3~30重量%、(b)成分を10~90重量%含有することを特徴とする請求項1記載の油性固体化粧料。

• (54) COMPOSITION FOR DENTAL PURPOSES

(11) 3-63205 (A) (43) 19.3.1991 (19) JP
 (21) Appl. No. 64-199487 (22) 2.8.1989
 (71) MITSUBISHI RAYON CO LTD (72) NAOKI YAMAMOTO(3)
 (51) Int. Cl. A61K6/083

PURPOSE: To obtain a composition for dental purposes which gives cured products of high strength by using a (meth)acrylate ester, a polymerization initiator and a graft polymer prepared by polymerizing ethylenically unsaturated monomers in the presence of a rubber polymer.

CONSTITUTION: The subject composition for dental purposes comprises a (meth)acrylate ester such as methyl (meth)acrylate, ethylene glycol di(meth)acrylate, a polymerization initiator such as a peroxide, azo compound or benzophenone and a rubber graft polymer which is prepared by polymerization of an ethylenically unsaturated monomer in the presence of a rubber polymer. The rubber graft polymer is preferably composed of a polybutadiene as a core component and of 60 to 90wt.% of an acrylate rubber. The composition is especially suitable for repairing cheek teeth and a resin for denture bed on which high bite pressure is loaded.

• (54) OIL-BASED SOLID COSMETIC

(11) 3-63206 (A) (43) 19.3.1991 (19) JP
 (21) Appl. No. 64-200706 (22) 2.8.1989
 (71) KOBAYASHI KOSE CO LTD (72) SHIGESADA MOMOSE(1)
 (51) Int. Cl. A61K7/00

PURPOSE: To prepare an oil-based solid cosmetic which is excellent in shape retention, and good spreadability and smoothness, when applied by using a saturated hydrocarbon having a specific range of melting point and side chains and di- and/or tri-isostearic acid diglyceryl.

CONSTITUTION: The subject oil-based solid cosmetic contains 3 to 30wt.%, preferably 3 to 20wt.% of saturated hydrocarbon having a range of melt point from 85 to 105°C and side chains such as microcrystalline wax, polyethylene wax and 10 to 90wt.%, preferably 30 to 50wt.% of di- and/or tri-isostearic acid diglyceryl. This cosmetic can contain additives usually used in cosmetic such as colorants, perfumes, humectants, preservatives, UVabsorber, surface active agents and so on and is used as a lip stick, foundation, eye shadow, eye liner or the like.

• (54) SKIN COSMETIC

(11) 3-63207 (A) (43) 19.3.1991 (19) JP
 (21) Appl. No. 64-201057 (22) 1.8.1989
 (71) KANEBO LTD (72) KYOTARO HASUNUMA
 (51) Int. Cl. A61K7/00

PURPOSE: To obtain a skin cosmetic capable of simultaneously developing and providing excellent beautifying effects and inhibitory effects on skin aging, containing phosphoric ester magnesium salt of L-ascorbic acid and/or sulfuric ester sodium salt of L-ascorbic acid and γ -aminobutyric acid.

CONSTITUTION: A skin cosmetic which comprises one or more compounds selected from phosphoric ester magnesium salt of L-ascorbic acid and sulfuric ester sodium salt of L-ascorbic acid and (B) γ -aminobutyric acid as essential components in the ratio of usually 0.01-30wt.% component A and 0.01-10wt.% component B, preferably 0.1-10wt.% component A and 1-5wt.% component B based on the total amounts of prescription components of cosmetic, has neither side effects not suitable to human body nor skin irritation, is stable even by long-term preservation and can simultaneously develop and provide chapped skin preventing effects, inhibitory effects on skin aging and beautifying effects by synergistic effects of both the components.